

三五三一番

妹をこそ 相見に来しか 眉引の 横山辺ろの
猪なす思へる

三五三二番

春の野に 草食む駒の 口止まず 我を憫ふらむ
家の児ろはも

三五三三番

人の児の かなしけしだは 浜渚鳥 足悩む駒の
惜しけくもなし

三五三四番

赤駒の 門出をしつつ 出でかてに せしを見立
てし 家の児らはも